

2018.1.11(木) 劇遊び「シンデレラ」



前年12月の遊戯会での劇が楽しかったのか、今日は女の子で「シンデレラ」の劇をしようとみんなで話しあっていました。

もちろん劇には台本が必要。その作成は、字が得意なAちゃん。みんなと相談しながら、とても真剣な表情で書いていました。みんなに頼られ、責任感に満ちた表情でした。劇の出演者は女の子5人。お客さんには多くの女の子が座って観ていました。

劇は、出演者みんなの「シンデレラー」と大きな声とともに始まりました。少し照れ臭そうに笑いながらセリフを言う子や、反対に堂々と演じる子、「こうやって言うんだよ」と演技指導する子など様々でしたが、みんなで笑いながらも、時に真剣に演じていました。

(振り返り)

遊戯会后、特に女の子の間では、ごっこ遊びでお姫様になりきって演じたり、音楽に合わせて踊ったりと友達同士で表現遊びを楽しむ姿が以前に比べ多く見られるようになりました。また、先月から手紙を書く機会が多くなったこともあってか、難しい台本まで真剣な表情で話し合いながら作っていました。子ども達だけで行われる劇遊びで、ここまで大きなものは今回が初めてでした。やはり最初は恥ずかしさもあり、思わず笑ってしまう子もいたので、どちらかと言えば真剣に取り組みたい子から熱血指導を受けているシーンも見られました。ただそんなことも何のその、終わるまで実に楽しそうに遊んでいました。これが明日以降も演じる楽しさが継続されるような工夫をしていけたらと思いました。

2018.1.11(木) 泥団子あそび



前年からたびたび泥団子作りに挑戦しようが見られたBちゃん。この日も友達と一緒に泥団子作り。とくにBちゃんは前から丸く作るのが得意で、みんなからも一目置かれている様子でした。今日も、きれいに丸くできた泥団子を丁寧に布(ジャージの切れ布)で磨き、まるで陶器のように輝いていました。

(振り返り)

継続して楽しめるようにしたいと思いました。棚を作って飾るのもいいかと思うのですが、今までの経験で、みんなにも見てもらえるよう飾っておくと、興味のある他の子が触り壊してしまうことが多々あったので、どうか他の方法でみんなにも見てほしいなあ…と思いました。考え中です。

2018.1.12(金) 泥団子あそび



チョコボールみたい
(おいしそう...)
(とある男の子)

朝、昨日泥団子つくりで遊んでいたBちゃんに、「昨日の泥団子ある?」と聞くと、「お部屋のロッカーに、ビニール袋に入れておいてある」と言っていたので、一安心。というのも、みんなに見えるところに置いておくと、ほぼ確実に次の日には壊れてしまうので悩んでいるところだったのでした。そんな話をして私は違う場所に行ったのですが、しばらくしてからBちゃんが昨日の泥団子を持ってきて見せてくれました。泥団子を磨くのもまるで宝物を磨くように、丁寧に磨いては眺め、磨いては眺めをくりかえしていました。

(振り返り)

私との何気ない会話の後に、実際に泥団子を持ってきてくれるところに、自信の芽生えの息吹を感じました。また、この少しずつコツコツと磨いたらそれだけ輝く楽しさを、みんなとも「共有したい」という彼女の気持ちも同時に伝わってきました。今度時間をとって、作品展のような見てもらう機会を設けられたらと思います。

2018.1.12(金) ダンスあそび



遊戯室テラスでは、遊戯会で使われた音楽に合わせて年長組、年中組、年少組の女の子たちが踊っていました。年少組の子たちは、遊戯会で聞いた音楽を口ずさみながら、年長組の女の子が踊っているようすを見ていました。

(振り返り)

遊戯会以降、踊りや演技などの表現遊びが盛んになっています。また、多年齢の子たちとの交流も増えてきました。年下の子が「年長さんみたいになりたい」と思えるような表現遊びが、豊かに展開していくことを願っています。

2018.1.12 ビリビリバクダン



2018.1.12 羽子板あそび



2018.1.15(月) サッカーチーム決めからのトーナメント!



朝、ひばり組(年中組)のNくんの「サッカーやろう」をきっかけに、ひばり組の男の子たち数名とサッカーをしていると、つばめ組(年長組)のMさんとTくんが「いーれーてー」と入り、しばらくするとまた何人か入り、最終的につばめ組、ひばり組合わせの15名くらいで試合しました。しかし、15名でサッカーをするには人数が多すぎなので3チームで順番に行うことに…。

ホワイトボードを活用してチーム対抗で競うのも面白いのでは…。

(砂上先生 2018/1/5)



以前、砂上先生(千葉

大学准教授)に言われたこと

を参考に、ホワイトボードを使いチーム分けを行い、即席のトーナメント戦を行いました。チームの決め方は、じゃんけんで二人組に分かれ、勝ったチームと負けたチームで別れました。もう1チームは、後から入った友達チームとなりました。

(振り返り)

9:30頃から始まったサッカーは、お片付けまで行われました。保育者の感覚的には、チーム内で誰かを頼ったり、話し合ったりする姿から、チーム内の一体感のようなものが生まれていたように思いました。また、ホワイトボードでチーム分けをしたことによって、自分たちがどのチームなのかを確認する姿も見られ、自分の名前が書かれている嬉しさや、本格的なゲームをするぞというワクワク感にもつながったように感じました。

2018.1.15(月) うどん作り! 量って、踏んで、よく食べて



毎年1月に年長組を中心にうどんつくりをしています。うどんを作るには、小麦粉、強力粉、塩を混ぜてよくこねてうどんの生地を作ります。目指す生地の硬さは耳たぶの硬さ。生地をよくこねるために、ビニール袋に生地をいれ、さらにバスタオルで覆い、それを子ども達が踏み踏みます。目安は50回。交代交代で踏み踏みました。出来上がった生地を少し寝かせてから、今度は麺づくり。保育士の説明を聞き、真剣表情で生地を切っていました。もちろん食べたらいしかったです。

(振り返り)

年長組の子ども達は秤を使って小麦粉と強力粉と塩を量りました。おおざっぱに量る子や、慎重に量る子など性格の違いがよく分かりました。話の中で「ものを量る」環境は、常日頃から必要であるとクラスに秤を常に設定することになりました。

2018.1.17(水) とろだんご つくりかた おしえて 泥団子の作り方を教えてもらいました。



りょうじ先生泥団子

Bちゃんとの泥団子作り。昨日から「明日は泥団子つくろう」と約束をしていたので、今朝会うなり、「先生！だんご！」と勢いよく話しかけられました。それまでしていた友達とのお絵かきをやめて泥団子作りに取り組みました。私はBちゃんに泥団子の作り方を教わりました。泥団子に使う土は山の土が良いとこのことで、土を削り出し、少し水を含ませてよくこねました。こねた生地を丸くすると今度は白砂をかけて磨きの作業だそうで、「白砂はお遊戯室横の砂がいい」と教えてくれました。私も夢中になってしまいました。

(振り返り)

夏に一度泥団子作りのブームが来てからの2回目の泥団子ブーム。園庭の霜柱が日中溶け、ドロドロな園庭を見て再燃したのだと思います。以前より、肌理の細かい布で磨くなど前回の経験を生かしていました。

2018.1.17(水) たから ちず 宝の地図



昨日から特に女の子の間で、自分で宝の地図らしきものを書いて、示されたところを巡って探検をするという遊びが流行っています。今日も朝から、真剣な表情で使わなくなったポスターの紙の裏側に、いろんなクラス名や場所を書いていました。女の子グループで紙をもって書かれた目的地に行き、目的の場所についたら次に書かれた場所に向かってを繰り返していました。

(振り返り)

ここ最近、年長組の間で紙に遊びの内容を書いて、それに沿って遊ぶというのが流行っています。遊戯会から台本を作った劇遊び、クラスの郵便ポストなど、書くことの楽しさに浸っているように感じました。明日以降も紙と文房具を用意し、継続的に遊べるようにしたいと思います。

2018.1.17(水) どっちぼーる ドッチボール



2018.1.17(水) こままわし コマ回し



2018.1.19(金) 20人で大男と小人

(11月12月の様子をみて)子ども達の様子から、今ある遊びを遊び尽くしてしまっている様子が見て取れます。みんなで何かを行うよう機会を設けてみたらどうでしょうか。(砂上先生 2018/1/5)



日中子ども達と「大男と小人」という鬼ごっこをしました。「大男と小人」とは、「警察と泥棒」によく似た、チーム対抗戦の鬼ごっこです。最初は5人の子供と保育者1人で行っていたのですが、大男チーム、小人チームにはそれぞれ基地があり、その基地をラインカーで誰が書くかを話し合いで決めていました。結局、じゃんけんが勝った子たちが基地を書くことになり、時間がかかりましたが、なんとかゲームがスタートしました。10分くらい遊んでいると、「いーれーてー」と続々と仲間に入ってきて、とうとう20人くらいの鬼ごっこになっていました。

(振り返り)

「じゃあじゃんけん」

「基地を誰が書くのか…」これに関しては、普段から意見の強い子が「俺が書くー」と言っていたのですが、他の子の「僕も書きたいー」と負けじとした反論があって話し合いになりました。「〇〇は前も書いてじゃん！(だから今日は僕だよ)」から始まり、「前はかんけーないじゃん」と反論。以前は、意見の強い子がそのまま線を引こうとして小競り合いになっていたのですが、今回は第三者の子が「じゃあ、じゃんけん！」という言葉から、じゃんけんを決めることになりました。年長と言う年齢を考えると、このやり取りは当たり前のように感じますが、「これ以上行くとケンカが始まり、収集がつかなくなる」という雰囲気を感じた、冷静な彼の「じゃあ、じゃんけん」の言葉に、成長を感じました。

みんなのでの遊びについて

他の遊びを辞めてまで大男と小人に参加している子ども達の様子を見て、砂上先生がおっしゃった通り、一人の子ども自身で遊ぶ遊びには限界があり、誰かの力を借りるとさらに「次どうなるんだろう」という予測不能の期待感が生まれて楽しいのではないかと感じました。一方、一人ひとりの遊びも保育者や友達の関わり次第では、さらに面白くなることもあるのではないかと思います。子ども達のそれぞれの遊びが広がって、深まっていくよう、保育者が面白がって関わり準備をすることが重要だと改めて思いました。

2018.1.19(金) 羽子板何回できたかな

ホワイトボード*を活用してチーム対抗で競うのも面白いのでは…。(砂上先生 2018/1/5)



お正月遊びとして、出されている羽子板。数人の女の子と担任が「何回自分で羽を打てるか」と遊んでいました。担任が「ホワイトボードで書いてみよう」とホワイトボードに一人で何回羽を付けたか記録することに。そんな中、一人Aちゃんがずっと1回だけで終わっていたところ、少し保育者から「こうしたら」とアドバイスを受けたところ2回目に成功。すぐにホワイトボードに「2」と書きに行きました。その後も黙々と羽子板をするAちゃんの様子が見られました。

2018.1.19(金)まだまだ続くダンス遊び



お遊戯会以降、まだなお踊る子ども達。年下の子たちには指先の位置についても教えている姿が見られました。お湯議会から約1ヵ月。練習期間を合わせると2～3ヵ月くらい踊りをしていますが、まだまだ続きそうです。

